

横河電機株式会社

# 2020年3月期 第3四半期 決算説明会

2020年2月4日

## 1. 2020年3月期 第3四半期 連結決算の概要

取締役 専務執行役員 経営管理本部長 穴吹 淳一

## 2. 決算補足資料

四半期別実績／営業外・特別損益／受注残高

研究開発費・減価償却費・設備投資／貸借対照表／株価の状況

## 3. 現状認識およびKBCと共に目指す姿

代表取締役社長 奈良 寿

横河電機株式会社

# 2020年3月期 第3四半期 連結決算の概要

対象期間：2019年4月1日～2019年12月31日

**取締役 専務執行役員 経営管理本部長**  
**穴吹 淳一**

## ■ 第3四半期実績：引き続き堅調に推移

- ・サマリー : 増収、営業利益は増益  
ただし、特別損失の計上などにより、四半期純利益は減益
- ・セグメント別 : 制御 増収増益 (除・為替影響 : 受注4.9%増、売上5.4%増、営業利益13.1%増)  
計測 増収増益  
航機その他 減収・赤字縮小
- ・地域別 : 日本・中国・中東の受注、中国・インド・中東の売上が増加
- ・業種別 : 化学が堅調を維持

## ■ 通期業績予想：修正あり

- ・修正要因 : ①為替レートの見直し (USD110円 ➡ 109円、EUR130円 ➡ 121円、他)  
②特別損失の計上…のれん等減損損失\*56億円

## ■ 配当予想：修正なし

- ・年間配当金34円 (過去最高配当)

\*減損損失については本日(2/4)別途開示している「特別損失(減損損失)の計上及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」を合わせてご参照願います

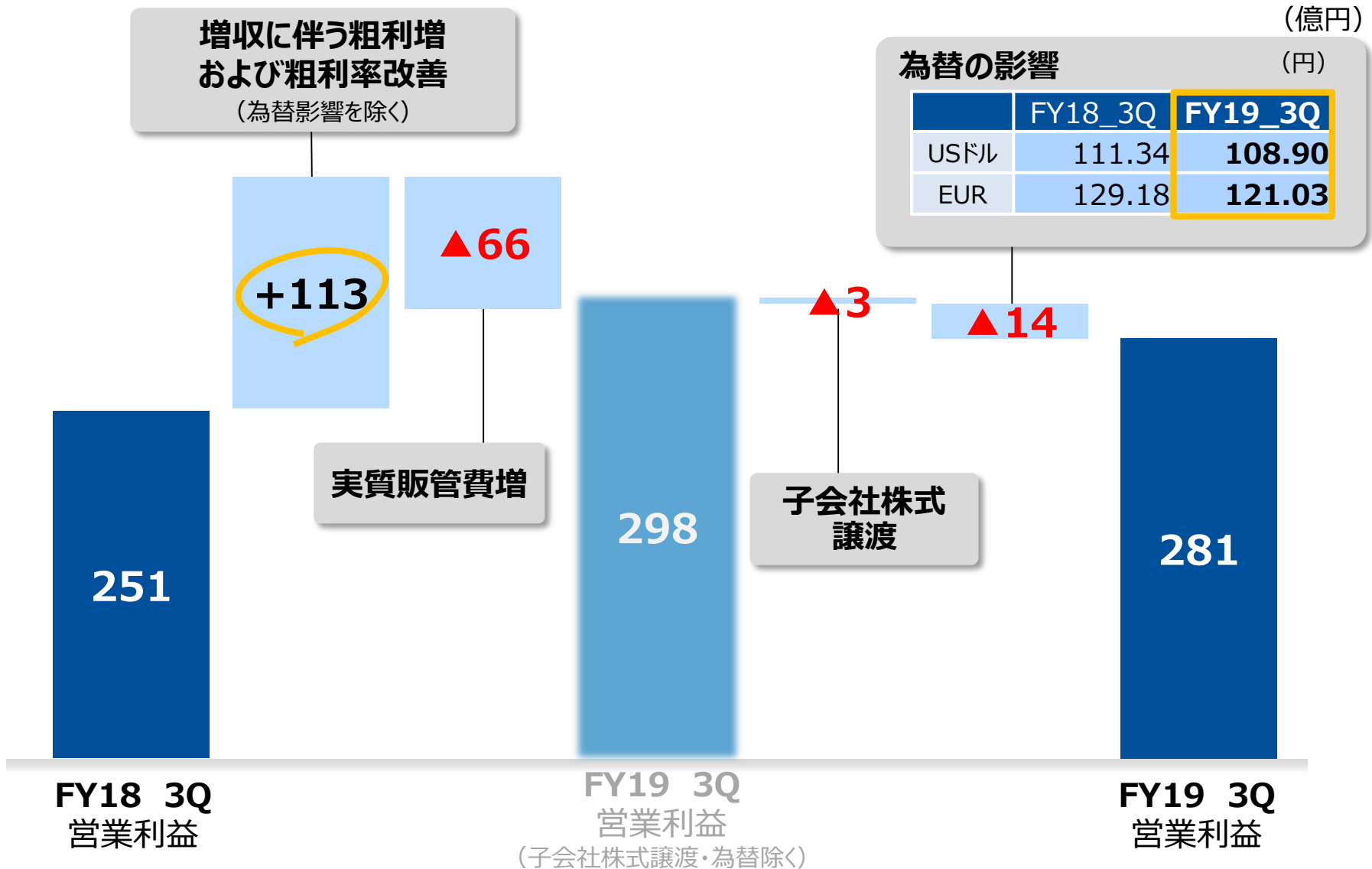
# 決算サマリー（前年同期比）

- ◆受注・売上 : 受注は**横ばい**（除・為替および子会社譲渡影響+5.7%）  
売上は**増収**（除・為替および子会社譲渡影響+6.8%）
- ◆営業利益 : 増収および粗利率の改善により、**増益**
- ◆四半期純利益 : 減損損失56億円などにより、**減益**

（億円）

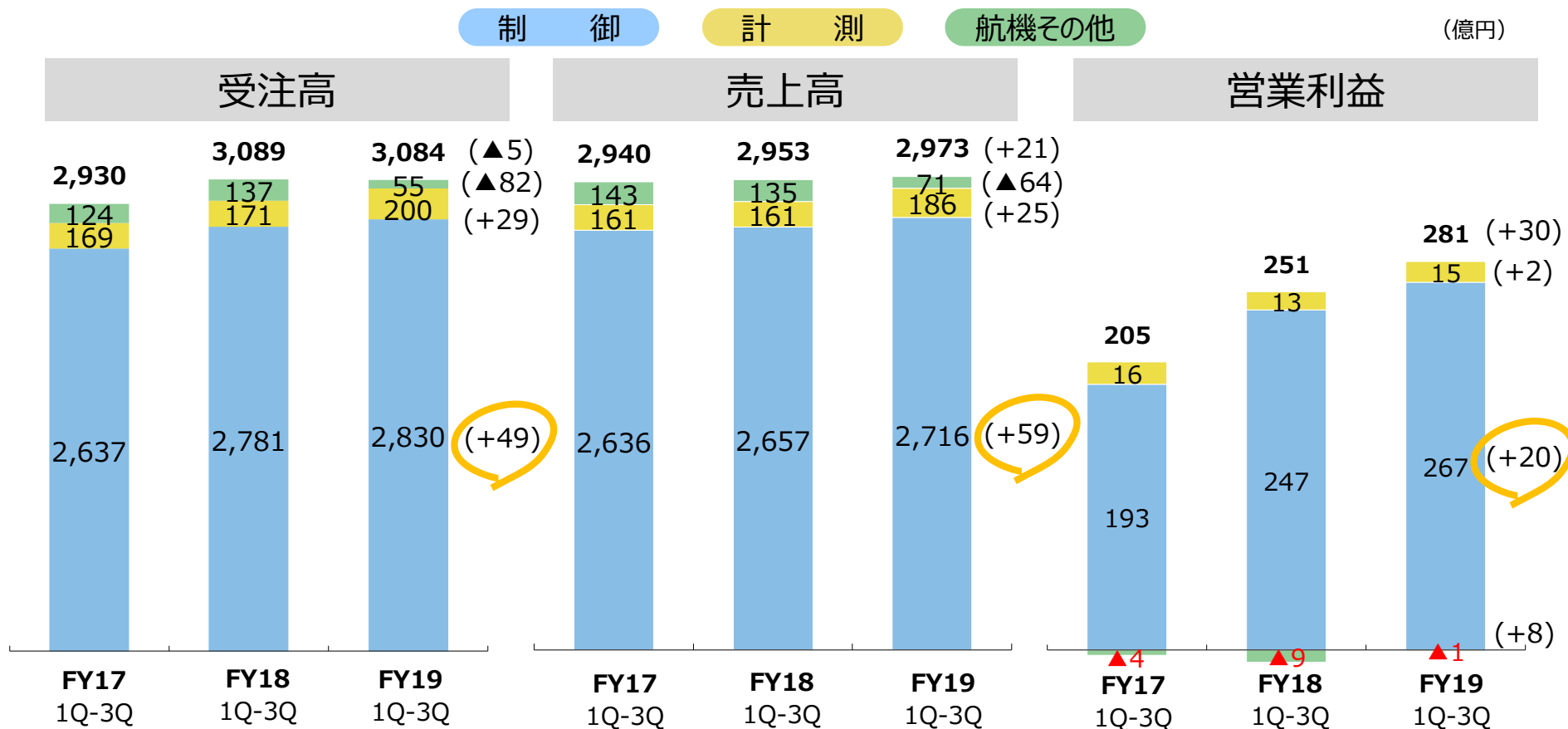
	FY18 1Q-3Q	FY19 1Q-3Q	差 異	増減率	為替および 子会社譲渡影響
受 注 高	3,089	<b>3,084</b>	▲5	▲0.1%	▲177
売 上 高	2,953	<b>2,973</b>	+21	+0.7%	▲175
営 業 利 益	251	<b>281</b>	+30	+12.1%	▲17
ROS(%)	8.5	<b>9.5</b>	+1.0pt	-	-
経 常 利 益	261	<b>282</b>	+21	+8.2%	▲17
親会社株主に帰属 する四半期純利益	191	<b>125</b>	▲66	▲34.5%	▲17
EPS(円)	71.38	<b>46.76</b>	▲24.62	▲34.5%	-
為替レート   1米ドル=	111.34円	<b>108.90円</b>	▲2.44	-	-

# 営業利益分析（前年同期比）



# セグメント別 受注・売上・営業利益

- ◆ 制御事業 : 受注は日本、中国、中東が堅調。売上は円高のなかで増収を確保  
(除・為替影響 : 受注+4.9%、売上+5.4%)  
営業利益は、増収に加え、粗利率改善により増益 (除・為替影響 : +32億円、+13.1%)
- ◆ 計測事業 : 計測機器事業およびライフィノベーション事業がともに堅調で、増収増益
- ◆ 航機その他事業 : 子会社譲渡の影響により減収だが、営業利益は赤字が縮小



# 制御地域別 受注・売上高

◆受注：日本・中国・中東などで増加。前年大口の反動や円高の影響もあり、アジア、欧州・CISは減少  
(除・為替影響：+136億円、+4.9%増)

◆売上：円高の影響を受けつつも、中国・インド・中東などで増加 (除・為替影響：+144億円、+5.4%増) (億円)

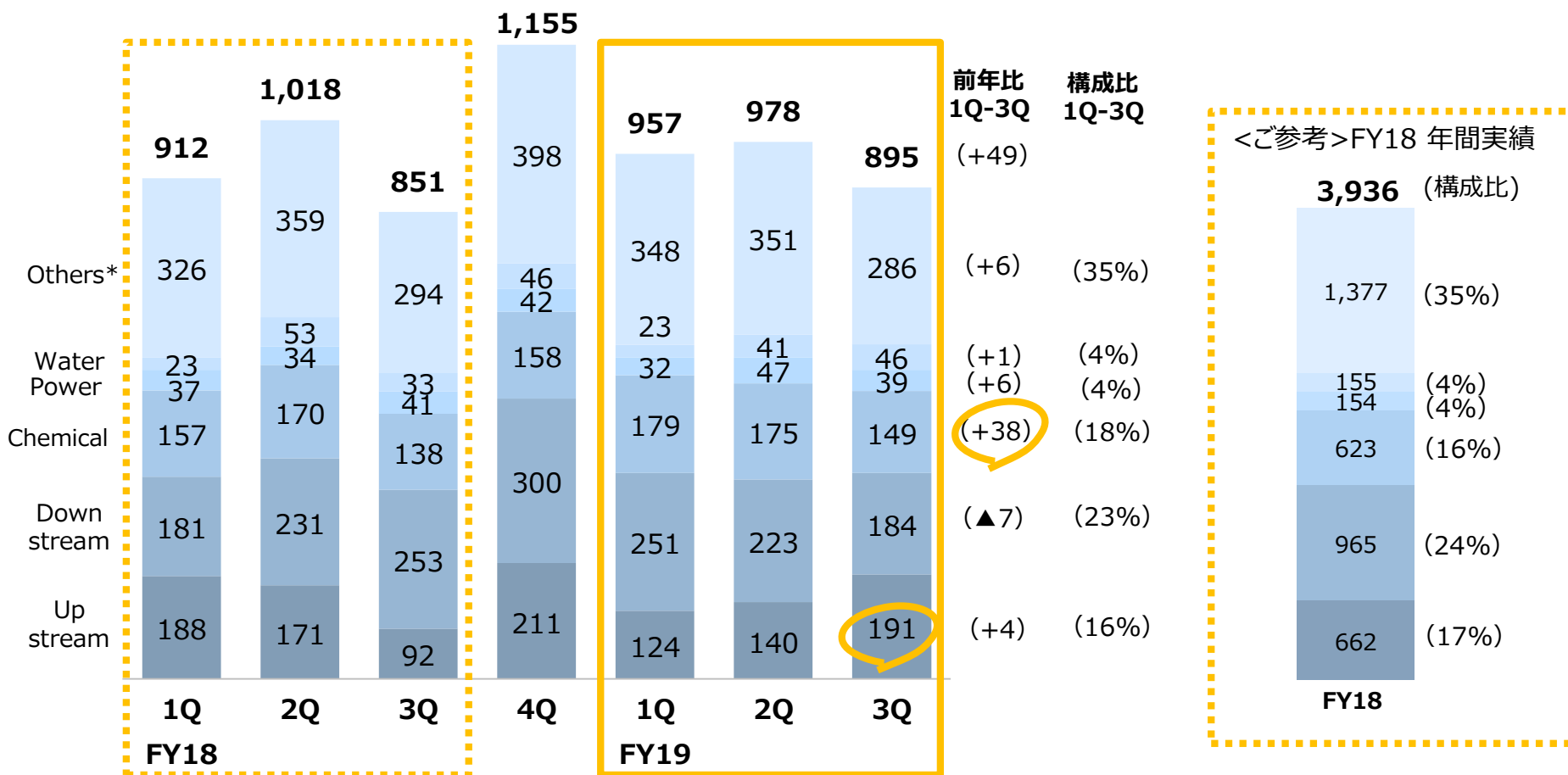
受注高	FY18 1Q-3Q (A)	FY19 1Q-3Q (B)	前年同期比 (B-A)
日本	776	814	38
アジア	949	915	▲34
(東南アジア・ 極東)	(489)	(455)	(▲34)
(中国)	(318)	(334)	(16)
(インド)	(142)	(126)	(▲16)
欧州・CIS	383	360	▲23
中東アフリカ	391	438	47
北米	218	229	11
中南米	64	74	10
海外小計	2,005	2,016	11
合計	2,781	2,830	49
為替レート 1米ドル=	111.34円	108.90円	▲ 2.44円

売上高	FY18 1Q-3Q (A)	FY19 1Q-3Q (B)	前年同期比 (B-A)
日本	752	755	3
アジア	892	913	21
(東南アジア・ 極東)	(497)	(470)	(▲27)
(中国)	(313)	(333)	(20)
(インド)	(82)	(110)	(28)
欧州・CIS	376	373	▲3
中東アフリカ	358	391	33
北米	217	219	2
中南米	62	65	3
海外小計	1,905	1,961	56
合計	2,657	2,716	59
為替レート 1米ドル=	111.34円	108.90円	▲ 2.44円



# 制御業種別 受注高

(億円)



\*Othersの主な業種 : Pharma Food、ELECTRICAL & ELECTRONIC、IRON & STEEL、PULP & PAPER ほか  
 なお、業種区分を精緻化してFY18数字を見直しました

# 業績予想（修正あり）

◆受注・売上・営業利益: 為替レートを見直し

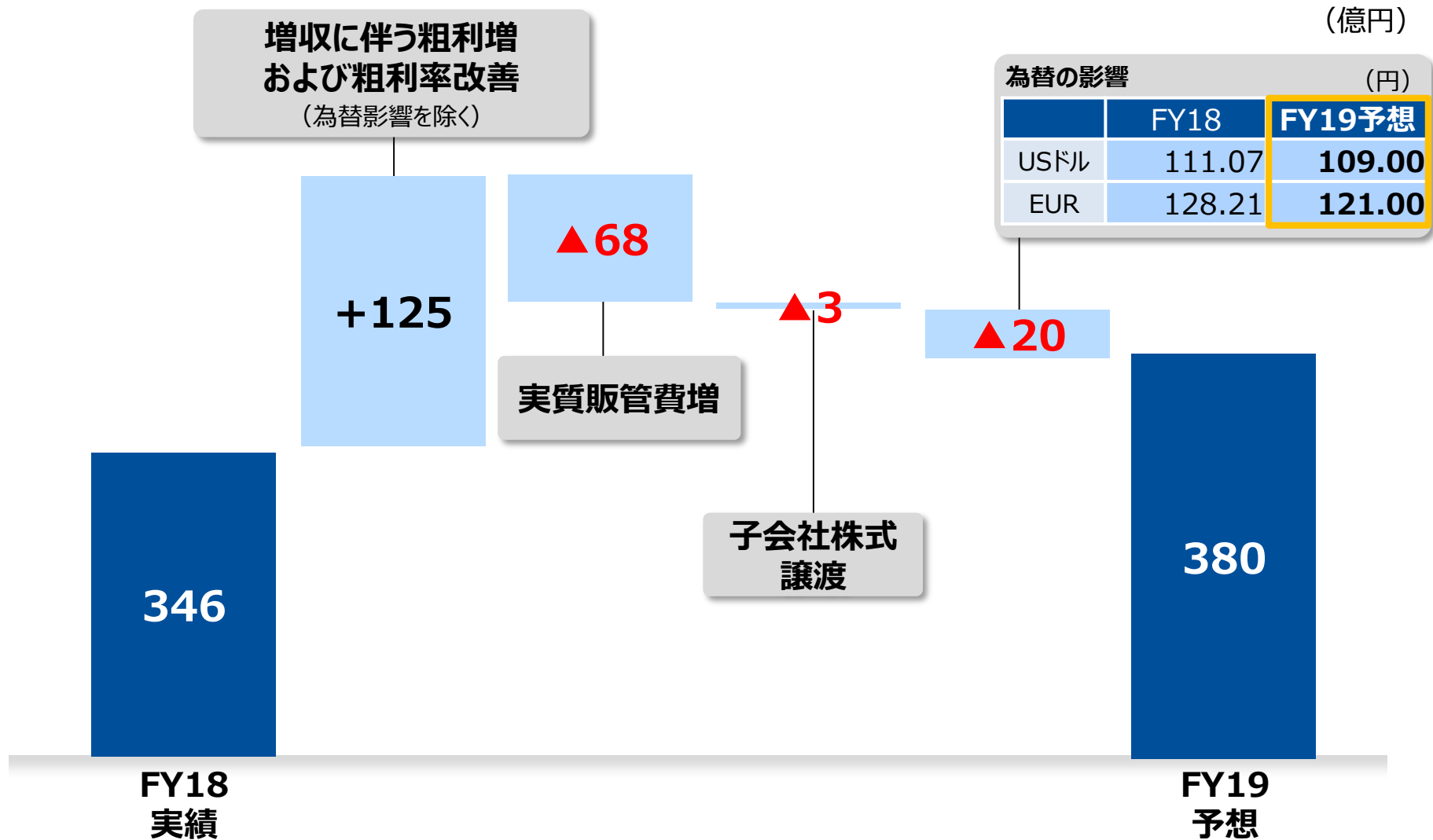
USD110円 ➡ 109円、EUR130円 ➡ 121円

中国元、韓国ウォン、その他通貨も実勢レートを踏まえて見直し

◆当期純利益 : のれん等減損損失56億円計上などを織り込み見直し (億円)

	FY18 実績(A)	FY19 予想(5/8 B)	FY19 予想(2/4 C)	前年比 (C-A)	伸長率 (C÷A-1)	
受注高	4,320	4,300	<b>4,180</b>	▲140	▲3.2%	
売上高	4,037	4,200	<b>4,080</b>	+43	+1.1%	
営業利益	346	400	<b>380</b>	+34	+9.8%	
ROS(%)	8.6	9.5	9.3	+0.7pt	-	
経常利益	368	400	<b>380</b>	+12	+3.3%	
税引前利益	384	400	<b>310</b>	▲74	▲19.3%	
法人税等	100	110	130	+30	+30.0%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	284	290	<b>180</b>	▲104	▲36.6%	
EPS(円)	106.54	108.64	<b>67.43</b>	▲39.11	▲36.7%	
為替レート	1米ドル=	111.07円	110円	<b>109円</b>	▲2.07円	-

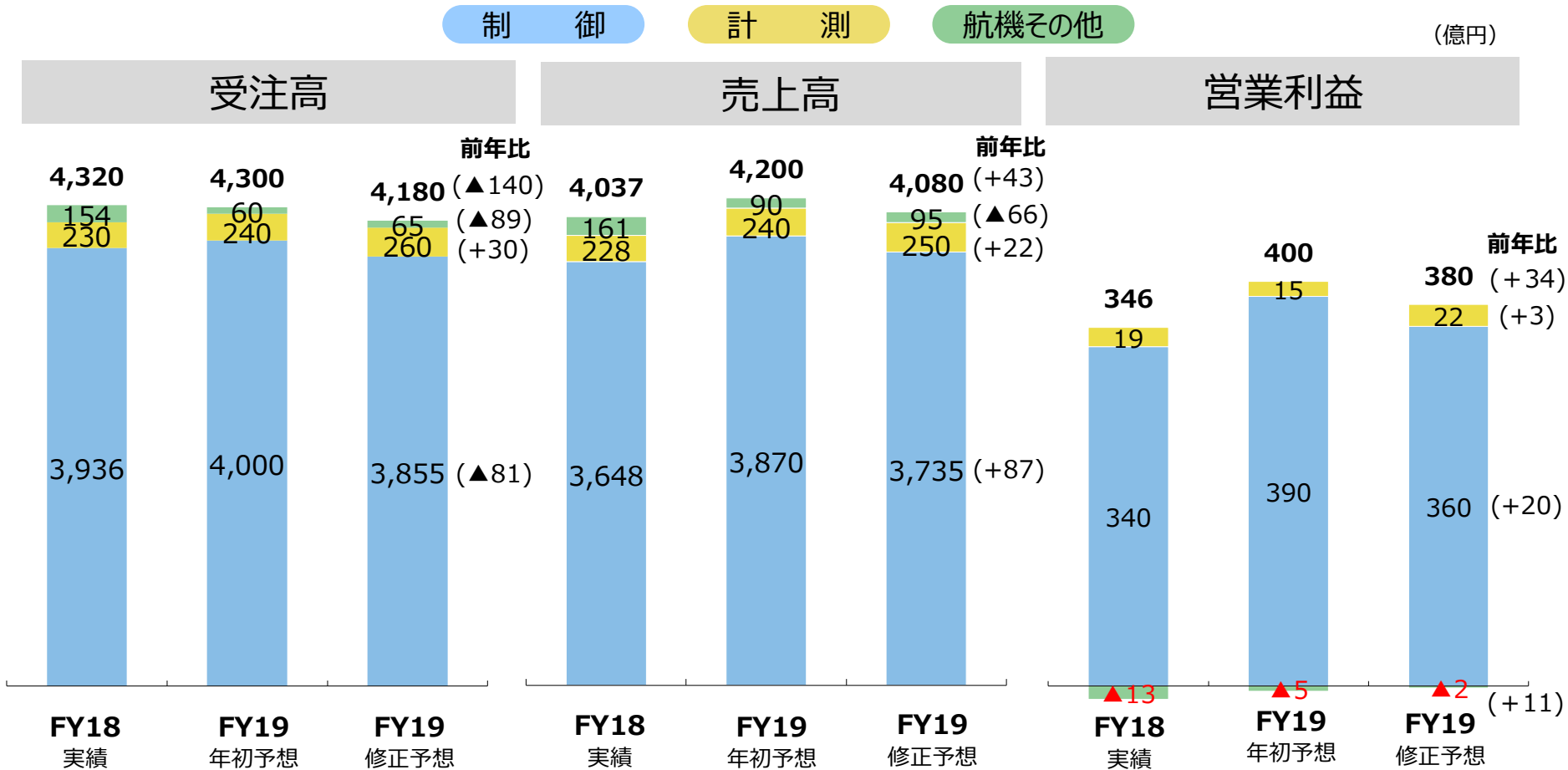
# 営業利益増減要因（修正あり）



# セグメント別 受注・売上・営業利益（修正あり）

◆ 制御事業は堅調だが、想定為替レートを見直し

計測事業、航機その他事業は事業進捗状況を踏まえ見直し



# 制御地域別 受注・売上高（修正あり）

◆主に実勢レートを踏まえて為替レートを見直し

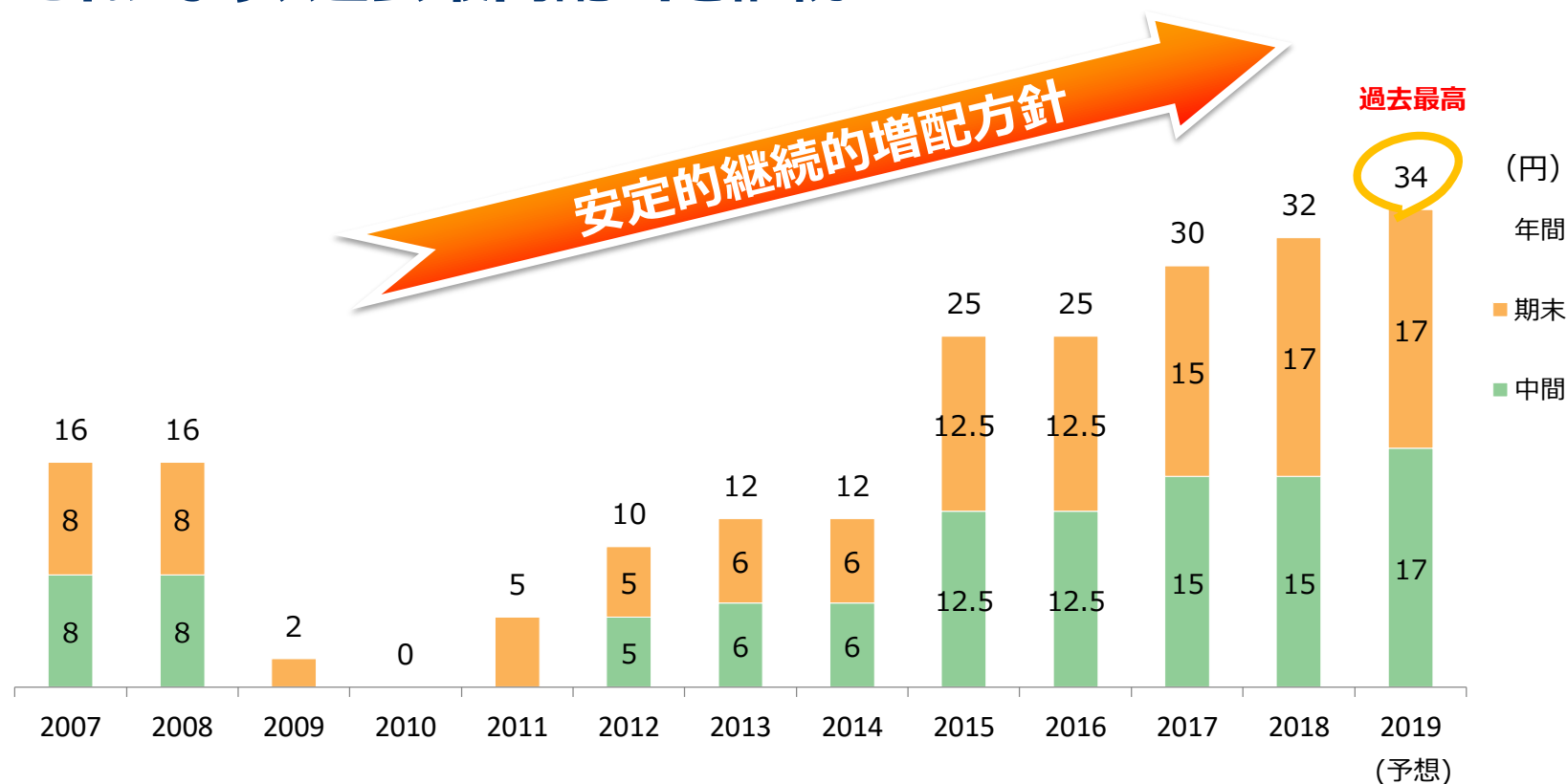
(億円)

受注高	FY18 実績 (A)	FY19 予想 (5/8 B)	FY19 予想 (2/4 C)	前年比 (C-A)
日本	1,114	1,120	1,120	+6
アジア	1,245	1,290	1,210	▲35
(東南アジア・ 極東)	(643)	(660)	(620)	(▲23)
(中国)	(426)	(440)	(430)	(+4)
(インド)	(176)	(190)	(160)	(▲16)
欧州・CIS	532	550	505	▲27
中東アフリカ	567	590	580	+13
北米	382	350	340	▲42
中南米	96	100	100	+4
海外小計	2,822	2,880	2,735	▲87
合計	3,936	4,000	3,855	▲81
為替レート1米ドル＝	111.07円	110円	109円	▲2.07円

売上高	FY18 実績 (A)	FY19 予想 (5/8 B)	FY19 予想 (2/4 C)	前年比 (C-A)
日本	1,094	1,120	1,120	+26
アジア	1,203	1,260	1,210	+7
(東南アジア・ 極東)	(673)	(660)	(630)	(▲43)
(中国)	(405)	(420)	(420)	(+15)
(インド)	(125)	(180)	(160)	(+35)
欧州・CIS	495	510	475	▲20
中東アフリカ	490	570	545	+55
北米	285	320	300	+15
中南米	81	90	85	+4
海外小計	2,554	2,750	2,615	+61
合計	3,648	3,870	3,735	+87
為替レート1米ドル＝	111.07円	110円	109円	▲2.07円

# 株主還元（修正なし）

- ・利益還元は経営の最重要施策の一つ
- ・配当方針に基づき、期末配当金予想は修正しない
- ・これにより、過去最高配当を継続



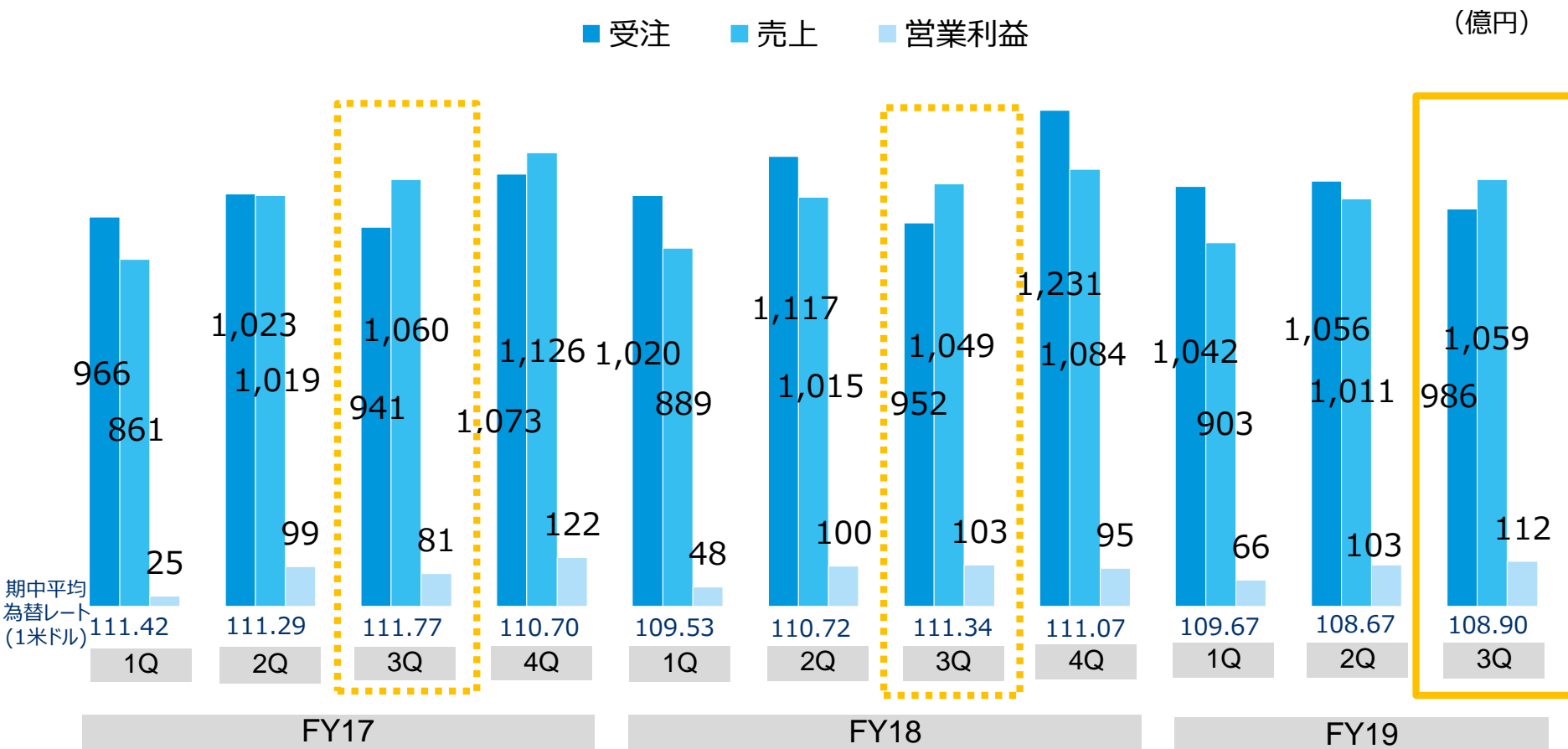
# 決算補足資料

- ・四半期別実績
- ・営業外・特別損益
- ・受注残推移
- ・研究開発費・減価償却費・設備投資
- ・貸借対照表
- ・株価の状況

# 補足：四半期別実績

◆売上高・営業利益は、日本の制御事業を中心に2Qおよび4Qに集中傾向

子会社譲渡の影響額  
受注：▲83億円 売上：▲85億円 営業利益：▲3億円





# 補足：営業外・特別損益

(億円)

	FY18_1Q-3Q 実績	FY19_1Q-3Q 実績
営業利益	251	281
営業外収益	25	28
営業外費用	15	27
経常利益	261	282
特別利益	25	27
特別損失	2	89
税引前利益	284	220
法人税等	93	95
親会社株主に帰属する 四半期純利益	191	125
(税負担率)	28.4%	37.2%

FY19: 為替差損 11億円

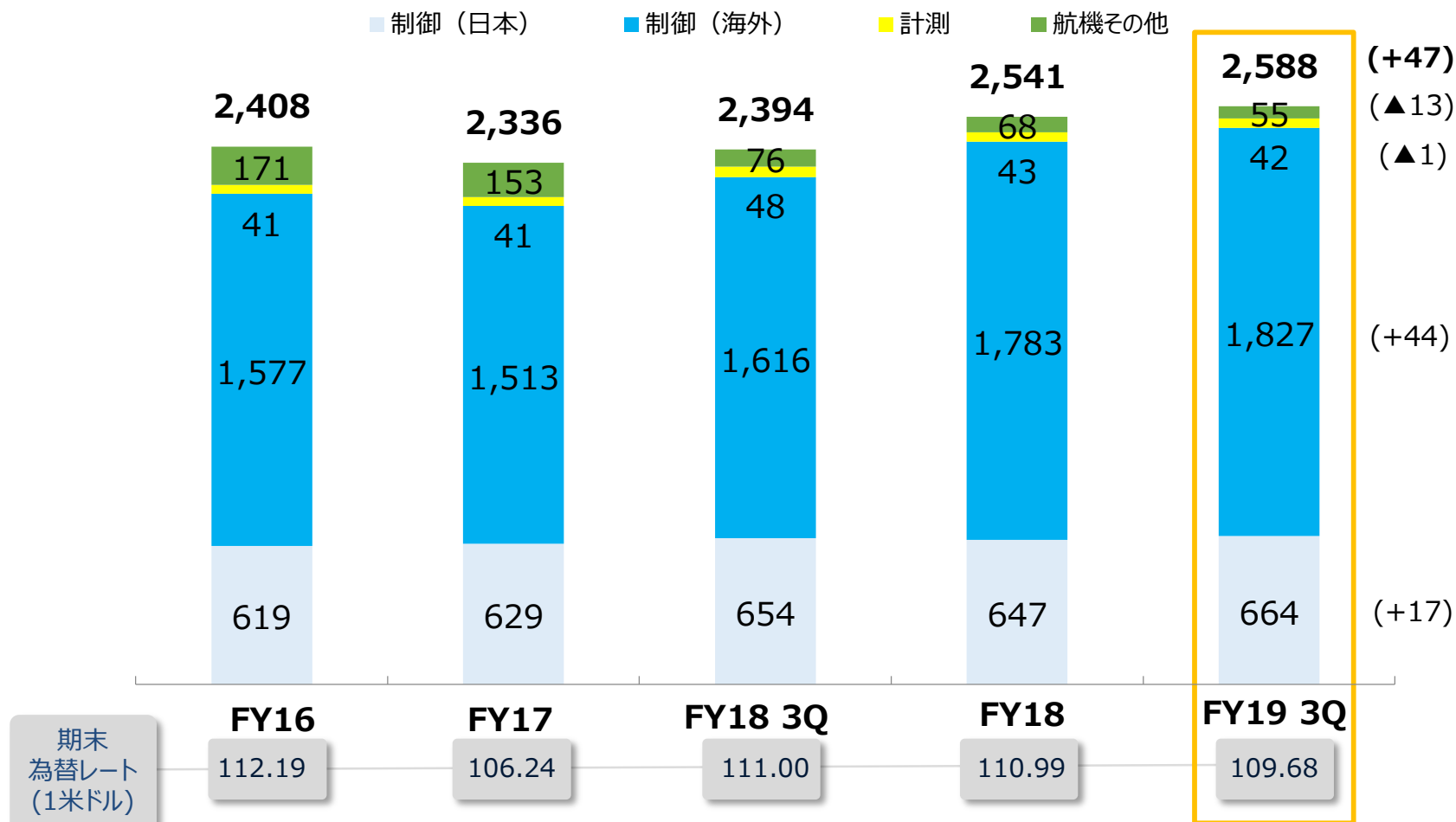
FY18: 投資有価証券等売却益 18億円

FY19: 投資有価証券等売却益 15億円  
事業譲渡益 8億円

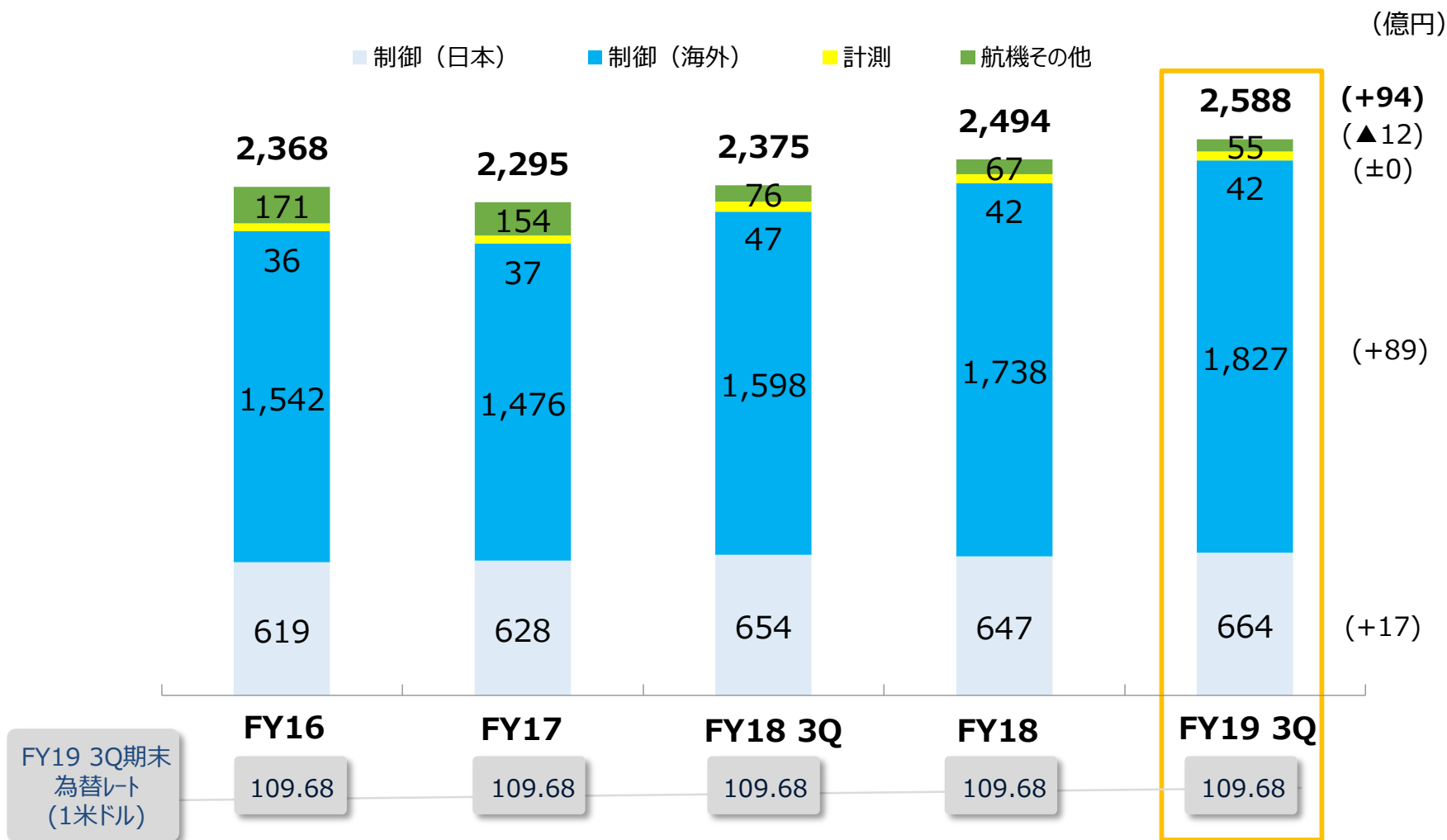
FY19: ソフトエラー対策強化引当金  
繰入額 30億円  
減損損失 56億円  
(KBCのれん等損失)

# 補足：セグメント別 受注残推移

(億円)

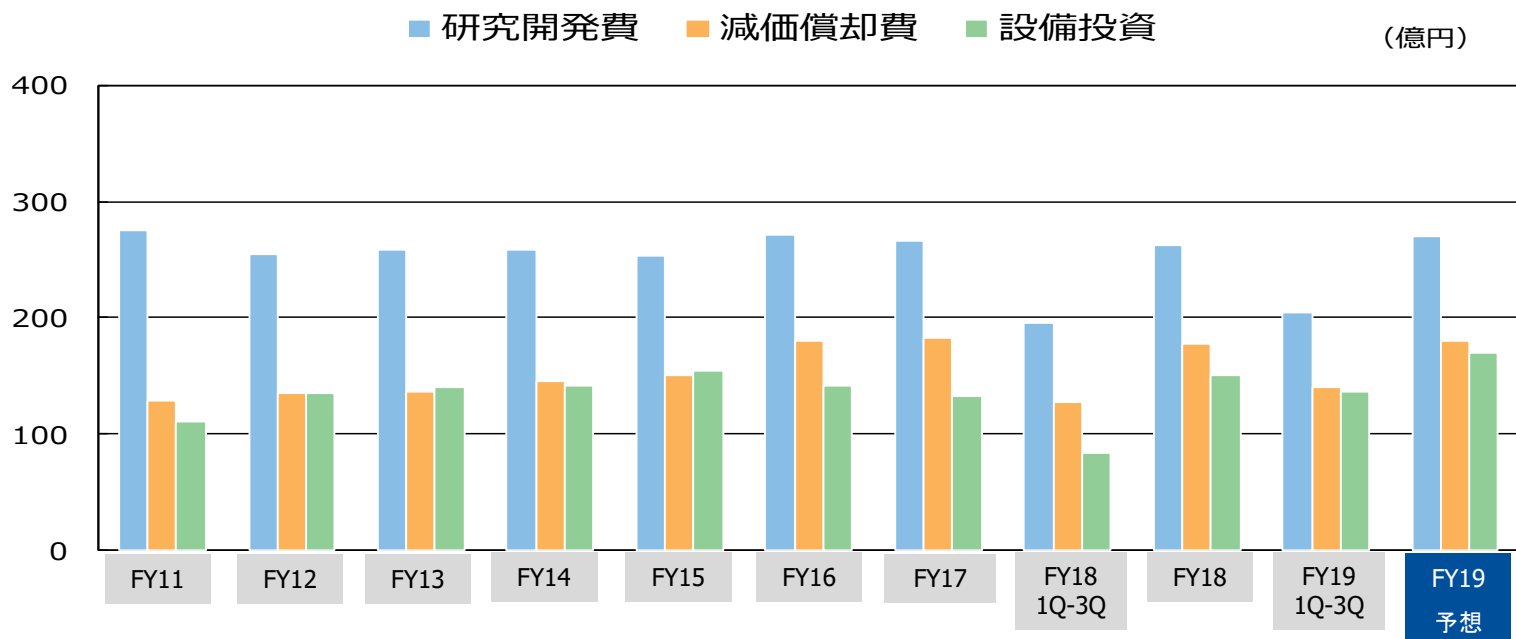


# 補足：セグメント別 受注残推移 \*FY19 3Q期末為替レート換算



# 補足：研究開発費・減価償却費・設備投資

◆FY19設備投資は中期計画戦略投資を前提に微増見込み

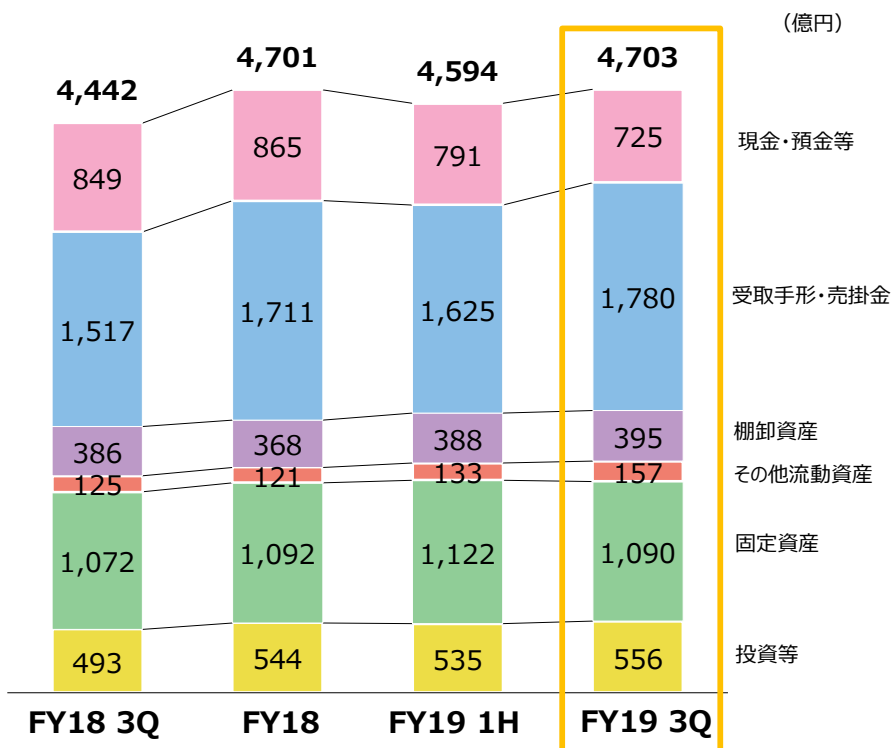


	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18 1Q-3Q	FY18	FY19 1Q-3Q	FY19 予想
研究開発費 (対売上高比率)	275 8.2%	255 7.3%	258 6.6%	258 6.4%	253 6.1%	271 6.9%	266 6.5%	196 6.7%	262 6.5%	204 6.9%	270 6.6%
減価償却費 (対売上高比率)	128 3.8%	135 3.9%	136 3.5%	145 3.6%	151 3.6%	180 4.6%	183 4.5%	127 4.3%	177 4.4%	140 4.7%	180 4.4%
設備投資 (対売上高比率)	111 3.3%	135 3.9%	140 3.6%	141 3.5%	154 3.7%	142 3.6%	132 3.2%	84 2.8%	150 3.7%	*133 4.5%	170 4.2%

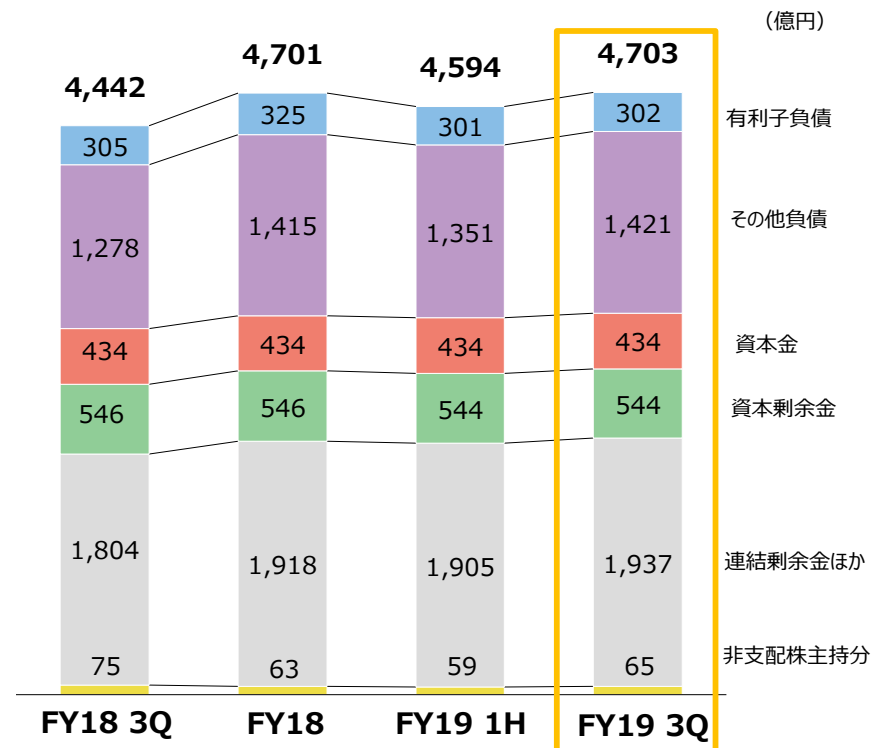
\*FY19よりIFRS第16号（リース）を適用

# 補足：貸借対照表

## 資産



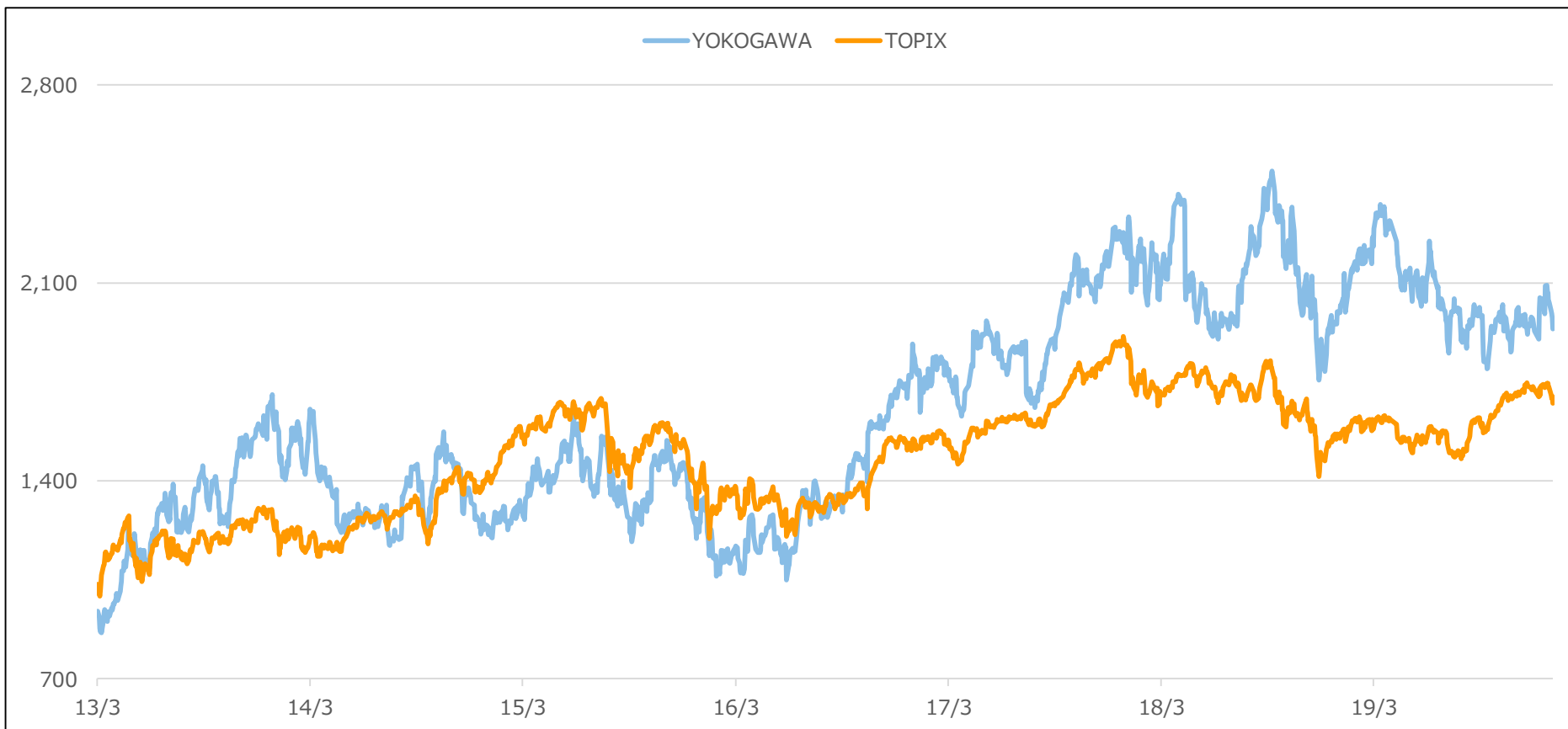
## 負債・資本



### IFRS第16号（リース）適用による影響（対FY18）

（借）有形固定資産その他 +94億円 （貸）其他流動負債 +21億円  
 其他固定負債 +71億円

# 補足：株価の状況



(円)

	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3	19/6	19/9	19/12	20/1/30
Yokogawa	946	1,667	1,295	1,163	1,752	2,198	2,291	2,112	1,977	1,929	1,938
TOPIX	1,035	1,203	1,543	1,347	1,512	1,716	1,592	1,551	1,588	1,721	1,675

横河電機株式会社

2020年3月期 第3四半期決算

現状認識およびKBCと共に目指す姿

*Transformation 2020*

代表取締役社長

奈良 寿

2020年2月4日

# 現状認識

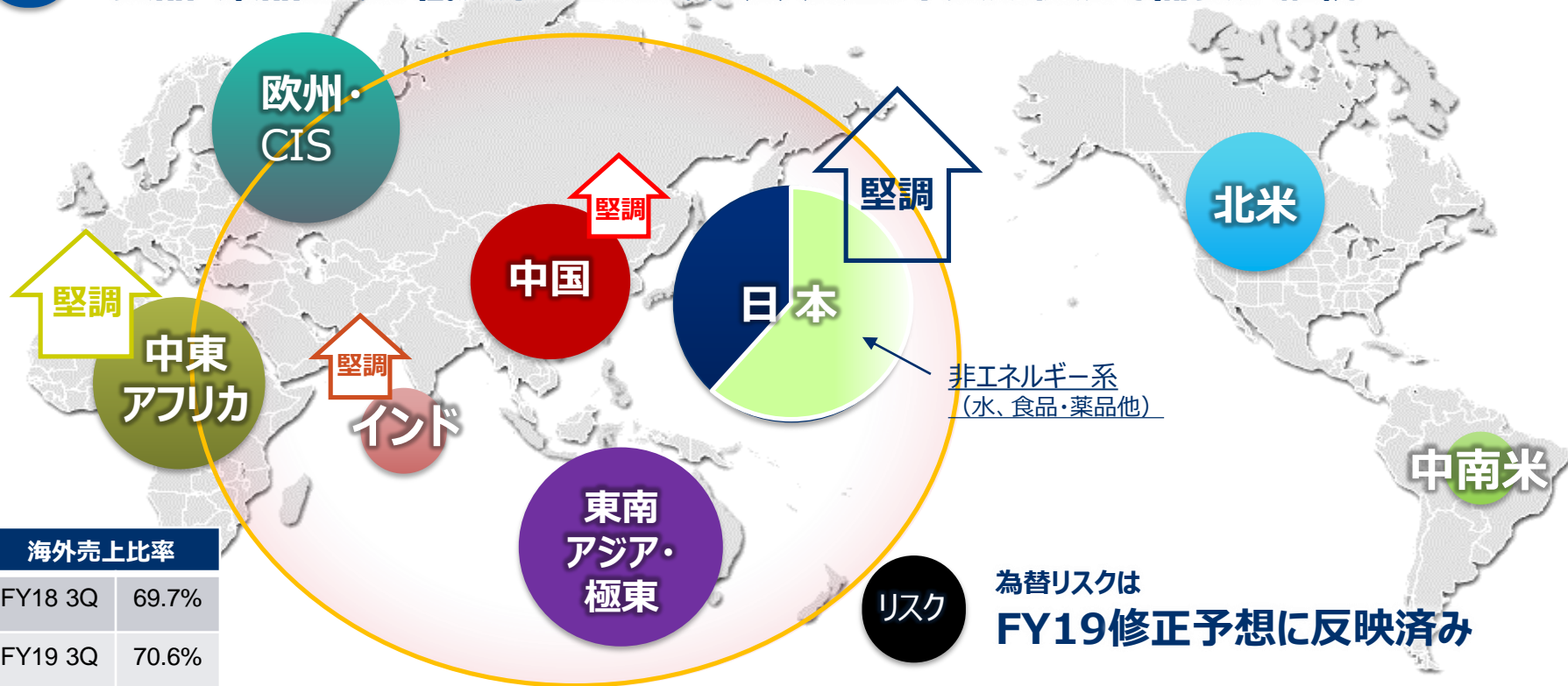
景気減速懸念が増しているなかで、生産性向上・環境対応関連などのOPEX需要は堅調、社会課題解決に向けたクリーンなエネルギーへのシフトなどは、CAPEX投資の機会

地域

**偏りがない構成**：日本・中国・中東の受注、中国・インド・中東の売上が堅調。北米は機会注目

業種

注力業種の化学は堅調継続、背景にOil to Chemicalなどでの需要増加  
**食品・薬品**も堅調、低炭素のLNGを含むガス関連は中長期視点で需要が継続





## <統合後の活動で得られた成果>

- バリューチェーン全体の最適化、生産の最適化、資産運用など、お客様に価値を提供する  
**独自のポジションを確立**
- YOKOGAWAとKBCの統合ソリューション およびKBCの変革による  
**新モデル/新ソリューションの構築**  
(例 : Profit-driven Operation, Dynamic Real Time Optimizer)



シナジー効果は確実に表れ始めており  
**受注は改善傾向**



## <課題認識>

- 市場自体の変化  
➔ お客様も苦戦
- コンサルティングビジネスの苦戦  
一方、テクノロジービジネスは  
毎年約6%伸長
- **スピード感**  
➔ 人、経験、ノウハウの共有など  
最適リソース配分を含めた  
ビジネス体制構築中



事業計画に乖離

**のれん等減損損失を計上** ✓



A Yokogawa Company

## 〈シナジー実績の一例〉

- ① アジア : コンサルティング実施 → 成果によりDCS更新JOBを新規獲得
- ② アジア : お客様のオペレーション伝承の課題をデジタル化で解決  
→ AI分野で協業を提案中
- <NEW>
- ③ 中東 : 過去最大規模のDX（デジタルイゼーション）統合JOBを受注  
→ 組織や教育を含めた**KBCのコンサルティングが差別化ポイント**



## 欧米に加え、日本を含むアジア、中東、インド、中国などで、受注が積み上がっている



# 3つのシナジー（イメージ）

自己認識

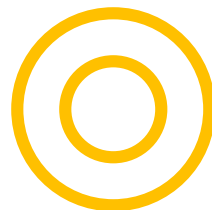


新規客先からの  
受注増加

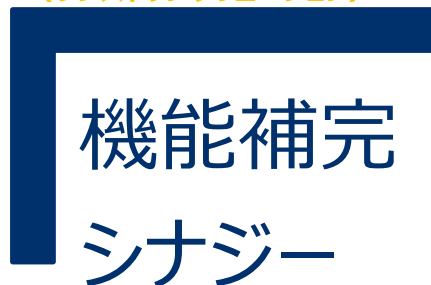


お客様  
シナジー

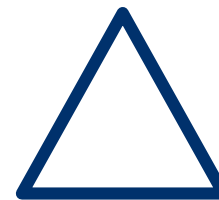
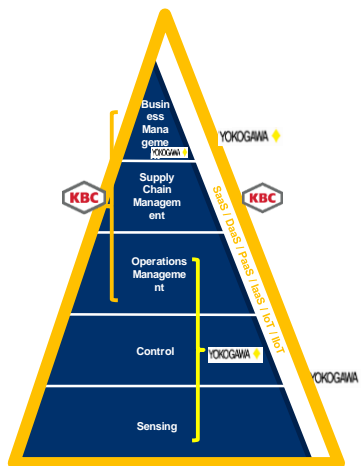
2016年4月  
KBC社買収



得意業種で範囲  
の拡大  
(ワンストップソリューション)



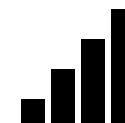
機能補完  
シナジー



付加価値  
シナジー

➔進化モデルを共創中  
スピードが課題

人、経験、ノウハウの融合など  
真のシナジー効果はこれから  
顕在化





今後もさらに日本、中東など複数のPJTでシナジーが期待、  
**KBCは、今後の成長戦略に必要不可欠**



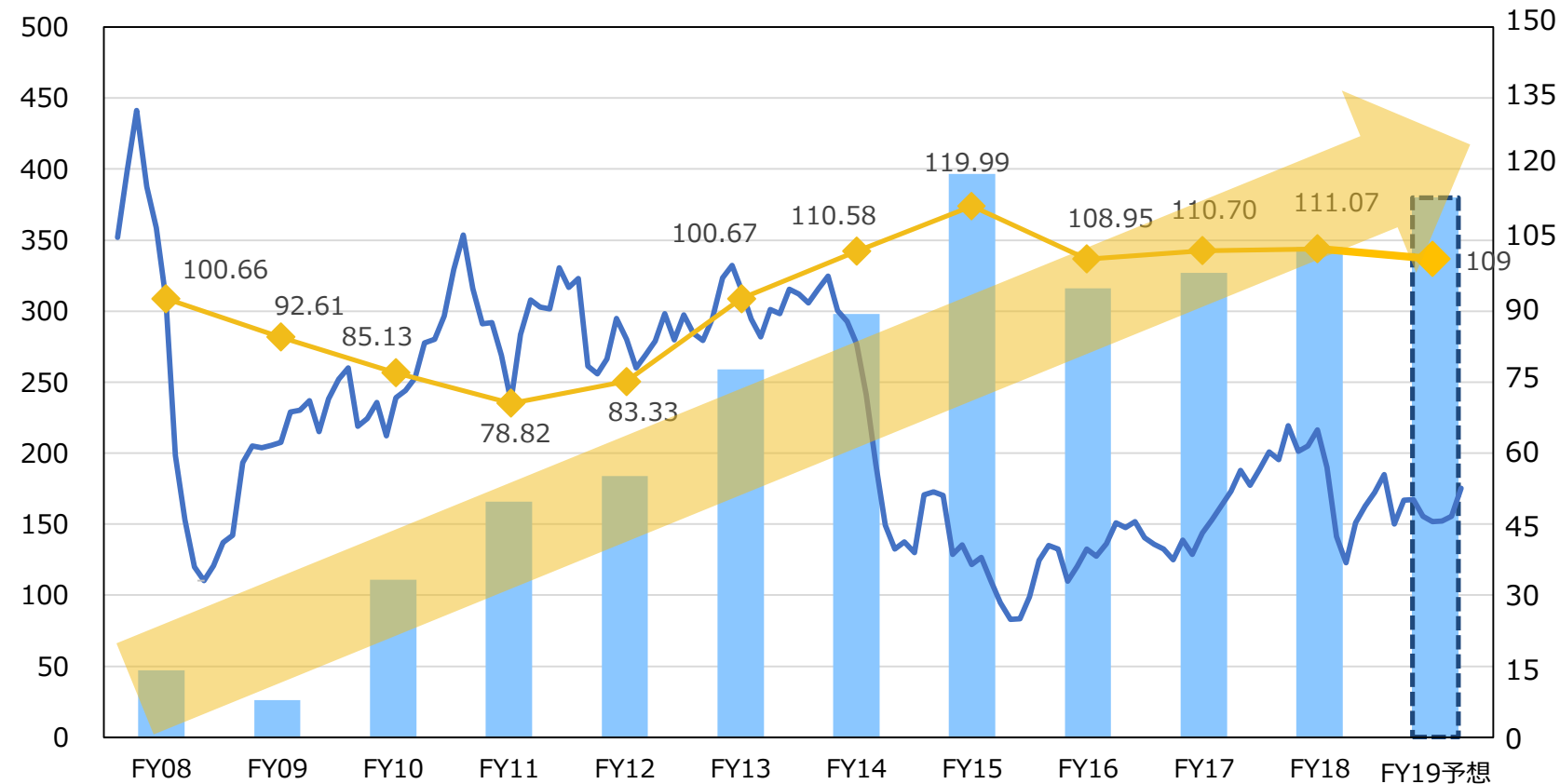
デジタルトランスフォーメーションを早期に実現し、  
**新しいOPEXビジネスモデルへ変革**

# 目指す姿：変化に耐えうる強靱な収益構造（レジリエンス）

## 原油価格や為替に大きく左右されず、ITとOT\*の強みを生かした 社会課題解決型の持続的成長企業

営業利益  
(億円)

原油価格  
為替レート  
(\$/bbl)  
(USD/¥)



KBC 買収 (2016年4月)

# YOKOGAWAが目指す方向

- 中長期的視点での経営
- 「成長」と「効率化」の両面に、「変革」しながら挑戦
- 社会・環境・経済の課題を解決し、事業価値を向上させ、結果として「企業価値の最大化」を目指す



Transformation 2020

中期経営計画

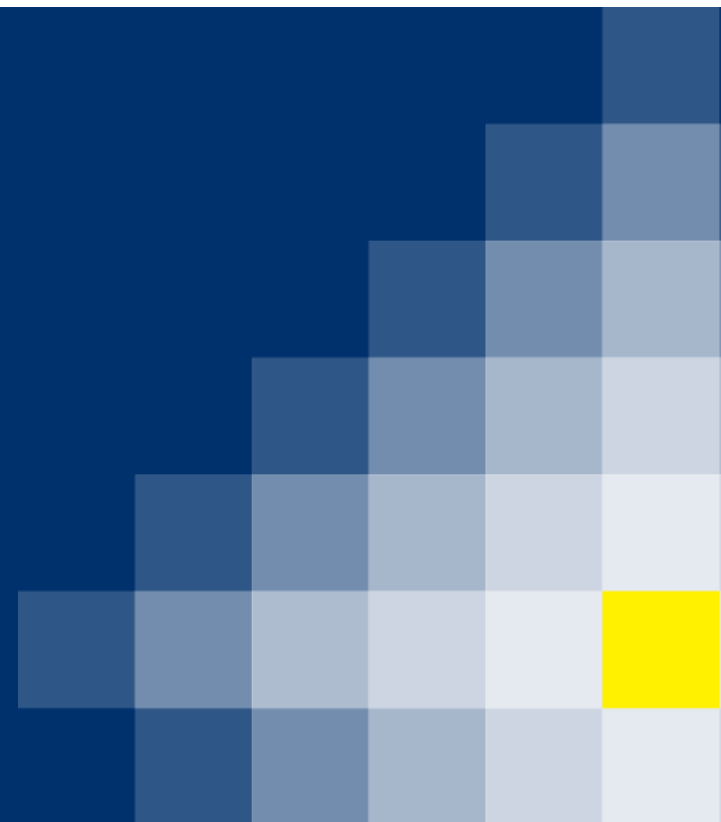
「成長機会の創出」と「成長基盤の確立」

持続可能社会実現への貢献



YOKOGAWAは、未来世代のより豊かな人間社会のために、2050年に向けて、Net-zero emissions, Circular economy, Well-beingの実現を目指します。

Co-innovating tomorrow™



# <ご参考> 制御事業のソリューション

## “Automation Supplier”から“Trusted Partner”へ



Operational Technology

Information Technology

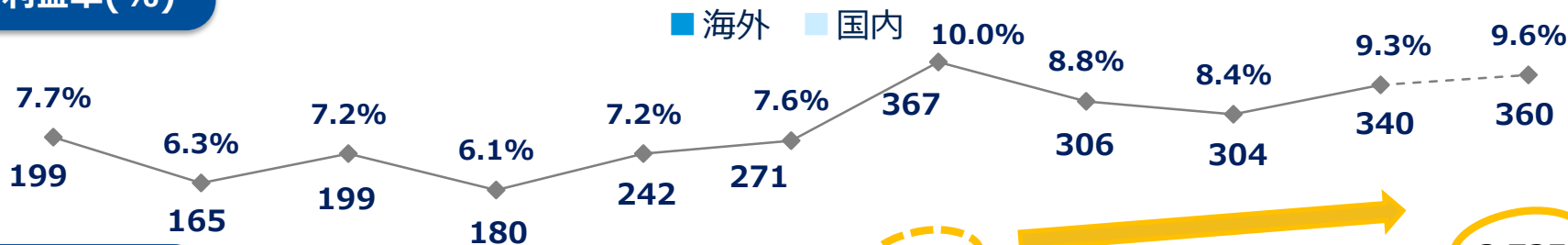


# <ご参考> 制御国内海外 売上高/営業利益/利益率推移

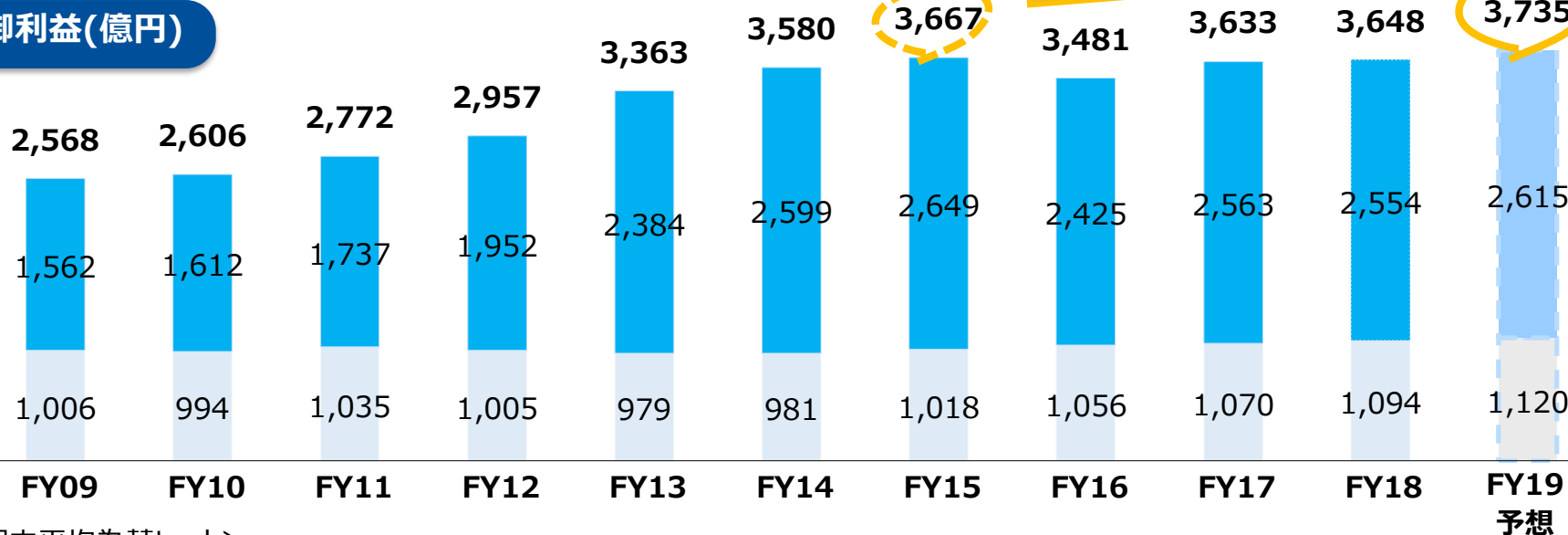
円高だが制御の売上高は、4年ぶりに過去最高を更新する

(単位：億円)

制御利益率(%)



制御利益(億円)



<期中平均為替レート>

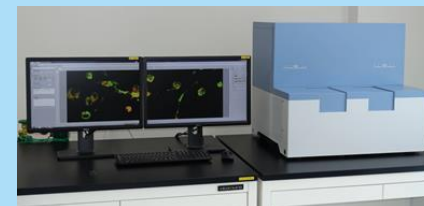
USDドル(¥)	FY09	FY10	FY11	FY12	FY13	FY14	FY15	FY16	FY17	FY18	FY19予想
	92.61	85.13	78.82	83.33	100.67	110.58	119.99	108.95	110.70	111.07	109.00

# <ご参考> トピックス (11/6~2/4)

11月

米国のベンチャー企業BioStinger, Inc.からライフサイエンス分野  
(1細胞解析ソリューション) で活用できるナノピペット技術を獲得

日本IR協議会の「IR優良企業特別賞」を初受賞



株式会社 MetaMoJiと共同でモバイル端末を活用した現場データデジタイズツール  
「SensPlus Note」を開発・発売

12月

大手総合化学メーカーのサウジアラビア基礎産業  
公社 (SABIC) と戦略的提携



サステナビリティ説明会を初開催

[https://www.yokogawa.co.jp/about/ir/shiryo/sustainability\\_meeting-ja/](https://www.yokogawa.co.jp/about/ir/shiryo/sustainability_meeting-ja/)



1月

OpreX Asset Operations and Optimizationのラインアップとしてデータ収集・エクスポート  
機能を大幅に強化したプラント情報管理システム「Exaquantum R3.20」を開発・発売

OpreX™

制御システム製品の開発プロセスに対して ISASecure SDLA認証を取得

インドネシアとの二国間クレジット制度 (JCM) プロジェクトにおけるCO2削減の成果がクレジット発行

※日付は発表月です

# <ご参考> YOKOGAWAが採用されているESG関連インデックスなど

2020年1月現在

DJSI-Asia Pacific  
 FTSE4Good Index Series  
 MSCI ESG Leaders Indexes  
 FTSE Blossom Japan Index  
 MSCIジャパンESG セレクト・リーダーズ指数  
 MSCI 日本株 女性活躍指数  
 SNAMサステナビリティ・インデックス  
 CDP  
 S&P/JPXカーボンエフィシエント指数

MEMBER OF  
**Dow Jones  
 Sustainability Indices**



In collaboration with

a RobecoSAM brand



FTSE4Good



FTSE Blossom  
 Japan



2019 Constituent  
 MSCI ESG  
 Leaders Indexes



2019 Constituent  
 MSCI ジャパンESG  
 セレクト・リーダーズ指数



2019 Constituent  
 MSCI日本株  
 女性活躍指数 (WIN)

THE INCLUSION OF YOKOGAWA ELECTRIC CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF YOKOGAWA ELECTRIC CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES.  
 THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

本資料およびアナリスト説明会で提供する情報のうち業績見通し及び事業計画等に関するものは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいています。

従って、実際の業績は、様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

当社がこの資料を発行した後は、適用法令の要件に服する場合を除き、将来に関する記述を更新または修正して公表する義務を負うものではありません。

本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用すること等を禁じます。

また、本資料には企業連結に係る暫定的な会計処理の確定および税効果会計に係る会計基準の一部改正に伴う過年度遡及修正を反映しておりません。(決算短信とは軽微な相違があります)

## 横河電機株式会社

財務・IR部 IR課

Email : [Yokogawa\\_Electric\\_IR6841@cs.jp.yokogawa.com](mailto:Yokogawa_Electric_IR6841@cs.jp.yokogawa.com)

TEL : 0422-52-6845

URL : <https://www.yokogawa.co.jp/about/ir/>